

## 学校法人神戸学院 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2020年度達成度評価表

		評価	理由
中期目標	教学の主体性を尊重しつつ、安定的な経営基盤を確立し、兵庫、神戸を代表する魅力ある学校となることを目指します。		
中期計画	1 経営と教学の役割分担の明確化と理事会機能の強化	B	私立学校法の改正により必要となった対応を滞りなく行い、経営と教学の役割分担の明確化並びに理事会機能の強化に努めている。法人中期行動計画の進捗管理については、2020年4月の事務組織改編に伴い、自己点検・評価業務が大学事務局所管となったことで、管理方法の再検討及び部署間のさらなる連携が必要である。第2次中期行動計画の中間年度を迎えたことから、今後はより一層部署間の連携を強化させ、第3次中期行動計画(仮称)策定の準備を進めていくことが望まれる。
	2 財政の健全化と安定的な経営基盤の確立	C	2020年度予算策定時に掲げた財務指標を満たすため、今後更なる努力が求められる。学生生徒納付金以外の収入源を確保するため、事業会社を設立できたことは評価できる。今後の事業展開について検討を進め、収入の安定性を図ることが必要である。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、法人創立110周年記念募金事業は見送りとなったが、今後も継続的な募金活動の実施に向けて、その風土醸成に努めることが望まれる。
	3 社会の変化に機動的に対応するための法人資源の選択と集中	C	法人設置学校施設設備の充実について、課題・懸念事項の整理・検討が継続的に行われているが、その他具体的な進捗はみられなかった。次年度以降、関係各所との協議及び調整を早急に進め、実行に向けて対応していくことが望まれる。
	4 労働環境の整備と男女共同参画の推進	C	労働環境の整備については、全学的な会議日の設定及びペーパーレス化の推進により改善がみられる部分もある。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、時間外労働の増加が生じている。環境整備に向けた具体的な取り組みを引き続き検討し実施するだけでなく、その有効性の検証も早急に行うことが望まれる。事務職員の人事評価制度については、2021年度より試行運用が決定したため、今後は適切で公正な評価制度の構築に向けて取り組むことが必要である。

評価 S:目標よりはるかに上回る、A:目標をやや上回る、B:おおむね目標どおり、C:目標をやや下回る、D:目標をかなり下回る